

令和3年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価（3月28日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①共通教科の基礎学力の定着を図るとともに、学習内容を精選し、多様な進路選択に対応できる学力の向上を図る。</p> <p>②言語活動の充実を図り、生徒の学習意欲を引き出すとともに、達成感を持たせ、主体的に学ぶ姿勢や態度を養い、自信と自己肯定感を育む。</p>	<p>①基礎学力の定着と生徒の進路実現に結び付く教育課程の計画的な実施を図る。</p> <p>②わかる授業を実践し、生徒の学習意欲と主体的に学ぶ姿勢を高め、自己肯定感を育む。</p>	<p>①令和4年度に向けて、両科併置の視点から、教育課程の編成に努める。</p> <p>②校内研究授業や授業研究会を継続して実施する。</p> <p>③ICT機器を活用し、教科・科目で共用できる授業スライドや動画などの教材研究、作成を図る。</p>	<p>①令和4年度の教育課程について、生徒の進路希望や実態を把握しながら、両科併置の視点を取り入れることができたか。</p> <p>②教員一人ひとりがR P D C Aによる授業改善に努めることができたか。</p> <p>③学校外の機関を活用した授業づくりができたか。</p> <p>④教科・科目間の連携を進めることができたか。</p>	<p>①令和4年度以降の教育課程について両科併置の視点を取り入れ、学校設定科目を設置した。</p> <p>②校内研究授業等とおして教員一人ひとりがR P D C Aによる授業改善に努めることができた。</p> <p>③小田原箱根商工会議所と連携して授業づくりを行い、授業公開を実施した。</p> <p>④県の指定事業「公共」等とおして教科間の連携を進めた。</p>	<p>①生徒の進路希望や実態を把握しながら、選択科目の設置についてさらに検討する。</p> <p>②教材の共有化を含めて今後も継続的に授業改善を進めていく。</p> <p>③感染症対策を講じながら、学校外の機関を活用した授業づくりをさらに進める。</p> <p>④新教育課程導入に伴い、さらに教科・科目間の連携を進め、ICT機器を活用した教材研究、教材作成を図る。</p>	<p>①今後も両学科で履修可能な科目の設定を期待する。生徒の授業評価の結果、全ての項目においてⅠ期よりⅡ期の数値が高いことは評価できる。</p> <p>②商工会議所等との連携など新たな取組みを今後どのように定着及び発展させていくかについて前向きに検討してもらいたい。</p> <p>③教員のICT活用技術の底上げをめざし、システムティックな手法の共有化に期待する。</p>	<p>①令和4年度以降の教育課程について両科併置の視点を取り入れ、学校設定科目を設置した。両学科で履修可能な選択科目の設置についてさらに検討する必要がある。</p> <p>②校内研究授業等とおして教員一人ひとりがR P D C Aによる授業改善に努めることができた。</p> <p>③小田原箱根商工会議所と連携して授業づくりを行い、授業公開を実施した。</p> <p>④県の指定事業「公共」等とおして教科間の連携を進めることができた。引き続き県の指定事業「シチズンシップ教育」を教科間で連携して進める必要がある。</p>	<p>①令和4年度に入学した生徒の進路希望や実態を把握しながら、両学科で履修可能な選択科目の設置についてさらに検討する。</p> <p>②教材の共有化を含めて今後も継続的に組織的な授業改善を進めていく。</p> <p>③学校外の機関を活用した授業づくりの研究を進め、感染症対策を講じながら、学校外の機関と連携した授業の実施をさらに進めていく。</p> <p>④新教育課程及び一人一台端末の導入に伴い、さらに教科・科目間の連携を進め、組織的なICT機器を活用した教材研究、教材作成を図る。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒の課題に応じた知識を身に付けさせ、個に応じた組織的な指導体制を充実させる。</p> <p>②ビジネスマナー教育を大きな柱とし、基本的な生活習慣を身に付けさせ、学校行事や部活動を通して、社会で活躍できる健全な人材を育成する。</p>	<p>①ビジネスマナー教育を中心とし、挨拶をする、遅刻をしない、正しい服装ができるようにする。</p> <p>②部活動の活性化をめざすとともに、その活動をとおして基本的な生活習慣やマナーを身に付けさせる。</p>	<p>①職員の朝の登校当番を実施し、挨拶、服装指導を行う。5回遅刻した生徒は、遅刻指導を実施する。</p> <p>②状況の変化に柔軟に対応し、生徒が自主的に活動できるように、支援する。</p>	<p>①昨年度末より強化した、正しい服装・身だしなみ及び遅刻指導を徹底することができたか。</p> <p>②「かながわ部活の日」をとおして部活動の振興を促進できたか。昨年度と比較して、部活動加入率が向上しているか。</p>	<p>①朝の登校当番と朝のSHRにて服装、身だしなみ指導を行い、効果をあげることができた。遅刻は冬に増えてくるので、継続的に指導する。</p> <p>②感染症対策から活動しにくい時期があったが、顧問会議や部長会をとおして制限がある中でもしっかりと活動することを確認した。加入率は横ばい状況が続いている。</p>	<p>①服装・身だしなみ指導は継続して行う。遅刻指導については、遅刻連絡票の書式を変更して反省や課題に取り組みやすくする。</p> <p>②部活動の振興については長期的な視点に立ち、強化指定部活動(仮名)を立ち上げ、その活動を通して学校を活性化すると同時に、外部にアピールにしていく。</p>	<p>①感染症予防に組織的かつ計画的に実施している点は評価できる。今後は生徒の心の問題についてSC等を活用するとともに、校内体制を常に検証する姿勢を継続してもらいたい。</p> <p>②様々な制限がある中で部活動の活性化に取り組むことは大変であるが、生徒の成長に欠かせない活動であり、積極的に取り組んでもらいたい。</p> <p>③商工会議所等との連携など新たな取組みを今後どのように定着及び発展させていくかについて前向きに検討してもらいたい。</p>	<p>①朝の登校指導では、生徒に対して昇降口で手洗い指導を主にを行い、併せて服装指導も行ってきた。各HR教室でも担任を中心に、身だしなみ指導を行ってきたので全体的に効果があった。</p> <p>②状況に対して臨機応変な対応をしながらの行事企画をせざるを得なかったが、生徒のアンケート結果などからは、概ね良好な意見が出ていたので一定の成果があったとしたい。生徒会本部役員が積極的・意欲的に行動しながら行事を企画しようとしていることは好ましい傾向である。部活動の活性化は今後も大きな課題である。</p>	<p>①年度当初に職員研修を実施して生徒の情報を全職員で共有する。生徒が安心かつ安全に学校生活を送れるように、中学校や外部機関のみならず、養護教諭やスクールカウンセラー等と連携して組織的に対応する。</p> <p>②感染症の状況に合わせて柔軟に対応することと、生徒が行事をどうしたいのか、どうすれば充足感・満足感が高められるのかということを第一に考えて行事を企画する。部活動の活性化については、今後も「かながわ部活の日」や独自に振興・宣伝活動を企画するなどしていくと同時に、各部で部員の定着をはかる活動を進めることが重要である。</p>
3 進路指導・支援	<p>①確かな勤労観や職業観を身に付けさせるため、成長段階に応じた継続性のあるキャリア教育を推進する。</p> <p>②生徒の希望する進路を実現するため、教科指導と連携した進路指導の充実を図る。</p>	<p>①確かな職業観や勤労観を養うため、計画的なキャリア教育を実践する。</p> <p>②各科それぞれの生徒のニーズに応じた学びや進路実現に加え、併置を活かした学びの機会や進路実現を目指す。</p>	<p>①ICTを活用した早期の情報提供や外部講師及び説明会の活用により、早い段階から生徒・保護者の進路意識の啓発を図る。</p> <p>②進路行事を計画的に配置し、キャリアプランニング能力を育成することによ</p>	<p>①アンケートから提供された情報について生徒の満足度を読み取ることができたか。</p> <p>①講習や説明会等の満足度(生徒・保護者)をアンケートから読み取ることができたか。</p> <p>②進路結果から生徒が希望する</p>	<p>①各種連絡にClassroom活用し、遅延なく情報提供ができた。公務員対策講座では、隔週全学年対象で行い、早期の啓発を行った。進路行事の満足度は89%であった。</p> <p>②大学36名、短大11名で、昨年度より微増となった。就職も64名</p>	<p>①今後もICTを活用した遅延なき情報提供を心掛け、公務員対策講座を含めた啓発活動も続けていく。</p> <p>②進学は公募制も視野に入れ、さらに選択の幅を広げていく。就職は他校に比べ豊富な求人を活かし、粘り強い指導を継続する。</p>	<p>①一つひとつの取組は評価できる。今後は本校の進路の特徴(何が身につくのか等)を明確にして、中学生に分かりやすくしてもらいたい。</p> <p>①1年生から継続的にキャリア教育を実践していくことは重要である。</p> <p>②未内定者に対する指導は、ハローワークに限らず幅広く検討する余地がある。</p>	<p>①ICTを活用した情報提供や公務員対策講座はかなり定着した。ただ、感染症対策のため外部を招いてのガイダンス等は、回数を減らしたり、中止せざるを得なかった。</p> <p>②進学は指定校推薦だけでなく、総合型選抜の合格も増加した。就職は豊富な求人を背景に粘り強く指導し、内定を得ることができた。</p> <p>③豊富な進路選択が可能だという本校の特徴を、どのように中学生に伝えていくかが大きな課</p>	<p>①感染症対策による制限も緩和される見込みであり、従来通りの進路行事を実施し、3年間を見通したキャリア教育を実施していく。</p> <p>②連携グループとも協力し、学校説明会でのアピールの方法を検討する。本校で身につけることができることを具体的に示し、それが進学・就職にどのように繋がっていくのか等をまとめ、中学生に提示する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月28日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				り、生徒の進路実現を図る。	上級学校や企業に進むことができたか。	が決定している。求人数は十分な数があった。			題である。	
4	地域等との協働	<p>①地域との相互交流を進め、地域に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>②様々な機会を活用し、広報活動の充実を図り、地域や近隣小中学校への情報発信に努める。</p>	<p>①地域のイベントや行事ごとなどに、感染対策をしっかりと講じて参加し、地域に根差した学校づくりを行っていく。</p> <p>②学校説明会など様々な機会を活用し、積極的に広報活動を展開する。今年度は、学校案内も刷新する。また、HP等を活用し、本校ならではの取組みや特色について、情報発信を充実させる。</p>	<p>①清掃ボランティアや公開講座など、地域交流の機会を増やす。赤い羽根の募金等も柔軟に実施する。</p> <p>②学校案内を刷新し、学校説明会・広報活動を改善するとともに、HPを含めたPR活動の充実を図る。また、出張授業や訪問での説明会などを積極的に実施する。</p>	<p>①昨年度以上に、地域の行事に参加することができたか。地域の方々と交流できたか。</p> <p>②学校説明会参加人数が増加したか。アンケート結果から参加者の感想を集約し、内容に満足したか。また、出張授業や訪問による説明会実施について柔軟な対応ができたか。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の関係で、今年度も地域との交流はなかなか実施することができなかった。</p> <p>②説明会の参加者は、昨年度実績と比較し、1.1倍(+46名)で生徒と保護者を併せ614名であった。また、アンケートの結果も良好で満足度は90%を超えた。</p>	<p>①ここ2年地域との交流がほとんど実施できなかったため、来年度実施に向けて準備を行う。</p> <p>②感染症対策の関係で入場者制限をして実施した。今後は感染症の状況にもよるが、さらに感染症対策を講じて少しでも多くの方が参加できるように配慮して開催する</p>	<p>①恒常化しつつある県西地区の定員割れに対して学校説明会や広報活動を根本的に見直し、中学生に何をアピールしていくか本校らしさを打ち出してもらいたい。校内常設店舗(城湯屋)や地元企業との連携をとおして、「何をしたいのか」、「何ができるのか」を念頭において企画等を行ってもらいたい。</p> <p>②広報に関しては、IT学習と連動して学校HPを生徒に評価させて改善の方策を検討して充実させてもらいたい。</p>	<p>①コロナ禍で、できる範囲で説明会などを実施してきた。また、中学校へ説明会で訪問した際に好印象をいただき一定の効果はあるとは思われるが、今後は、説明会の形式も変更する必要がある。感染症も落ち着いてくると思われるので、本校の魅力をしっかりと伝えていく。さらに、城湯屋の通常営業を検討して、本校のPRを積極的に行いたい。</p> <p>②中学生に本校の魅力が伝わるように、学校案内を刷新した。今後も、本校の魅力を伝えられるように改善するとともに、ホームページについてもより一層情報発信していく。</p>	<p>①今年度はさまざまな行事に制限があったが、今後は、学校説明会のみならず、より一層、中学校訪問を積極的に行う。その際に、教員だけではなく生徒が直接説明する機会を設定して新たな形式で実施する。学校説明会も同様に新たな形式で開催して、中学生に分かりやすく、アピールする。</p> <p>②特色をアピールするツールとして、非常に重要な学校案内であることから、今後も中学生にとって分かりやすい学校案内づくりを行う。また、受検生の減少もあるが、学校説明会への参加人数が前年度より増加したにもかかわらず、志願者数が減少した点について、分析する必要がある。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①学校周辺の環境に配慮した災害への安全対策を一層強化させる体制整備を推進する。</p> <p>②事故不祥事を起こさない、風通しの良い職場環境を整備するとともに、働き方改革を進め、職員・生徒が夢を持ち、夢の実現のため生き生きと活動できる学校づくりを推進する。</p>	<p>①家庭・地域と協力して安心して暮らせる地域社会の構築に努める。地域の中にあって高校生のすべき使命を考え、行動できるように導く。</p> <p>②職員間のコミュニケーションを充実させるとともに情報共有を十分に図り、事故・不祥事を未然に防ぎ、風通しの良い職場環境を構築する。</p>	<p>①地域との防災訓練やD I G訓練を通して、避難方法の熟知だけでなく、地域社会の中での高校生の役割等について考えさせる訓練方法を実施する。</p> <p>②衛生委員会の活動をとおして職場環境の改善を図る。事故・不祥事を未然に防ぐために、研修会等を継続的に実施する。</p>	<p>①アンケート結果から、訓練や地域との協働をとおして生徒の防災意識が高まったか。また、地域社会の中での役割に気づかせることができたか。</p> <p>②毎月、不祥事防止研修会を実施して、職員の意識向上を図り、事故・不祥事防止を未然に防ぐことができたか。</p>	<p>①避難訓練は、机上でのシミュレーションだけでなく、Chromebookのカメラ機能を使用して、実際に避難経路を生徒ひとり一人が所持している情報端末で確認した。地域との合同訓練は63名が参加した。</p> <p>②衛生委員会で職場の環境改善を目指して、提言を行った。不祥事未然防止のために、定期的に研修会を、さらに、職員による討議の場や個人面談を実施して意識の高揚を図った。</p>	<p>①災害時の校内・外の避難方法等の共有は図れているが、DIG訓練等による当地域の地形的な現状と防災設備を全生徒に周知することができず、今後は地域の協力を得て研修会や講習を増やしていく必要がある。</p> <p>②不祥事防止については未然防止のために、個人面談・研修会・議論などを継続的に実施していくことが必要であり、今後もよい職場環境づくりに取り組む必要がある。</p>	<p>①生徒の防災意識向上のために学年別やクラス別等の実施を検討してもらいたい。災害が年々増加している状況で、危機管理は継続的に、そして更なる情報共有をお願いしたい。</p> <p>①避難訓練の際に、校内への入り方や緊急時の対応を確認できた点は地域住民として安心できた。</p> <p>②不祥事防止については、どこの組織も同様であるが、コミュニケーションを大切にして風通しの良い職場づくりを目指してもらいたい。</p>	<p>①避難訓練については机上シミュレーションからChromebookを用いて視覚的に訴えた形式で実施した。また、地域住民等と連携して、職員不在時における避難経路を確認して不測の事態に備えた。</p> <p>②全職員との面談を実施するとともに、2回の職場討議を含めて、不祥事防止研修会を継続的に17回実施して意識の向上に努め、不祥事を未然に防いだ。また、衛生委員会でアンケートを実施して、職場の環境改善に努めた。</p>	<p>①地域住民等の防災意識は高いが、生徒の防災意識を維持していくことが課題である。今後は継続的に「命の大切さ」を訴えるとともに、感染症の状況を踏まえ、避難訓練の実施方法については検討する。</p> <p>②DVD研修資料や行政課発出の文書を活用して、今後も継続的に研修会を実施して職員の意識を高めていくことが重要である。また、問題を職員が一人で抱え込むことのないように相談しやすい環境を整えていくことも課題である。</p>